

2007

**■JAXA宇宙科学研究本部大気球観測センターによる大気球観測の概要**

2008年春から大樹町で実施される大気球観測の概要について、町はJAXA宇宙科学研究本部大気球観測センター吉田哲也センター長を講師に「大気球を用いた宇宙科学研究」と題し講演会を3月6日生涯学習センターで開催しました。

今回は、対象を町議会、農業委員会、教育委員会、職員とし、45名が参加して実施、吉田センター長は大気球が大型化し安全を確保できること、上空の気流が安定していることなどから大樹町に移転を決めた。実験は毎年春と秋の2回、年10機程度の大気球を打ち上げると話しました。



**■HASTIC設立5周年記念「北海道の宇宙開発」展**

NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)設立5周年記念「北海道の宇宙開発」展が2007年8月17日から8月25日までJR北海道札幌駅西コンコースで行われ、大樹町も共催、写真パネルの展示、パンフレット配布、説明員派遣などで参加しました。

8月4日に当町でCAMUIロケットの打ち上げがあったばかりで、道民の関心も高く「予想以上の反響」とHASTIC伊藤副理事長、期間中約2万人の方が訪れました。



**■第10回ペットボトルロケットコンテストin大樹**

町では子供たちの科学への関心を喚起し、宇宙のまちづくりの理解を深めるため、ペットボトルロケットコンテストを開催しています。

7月24日制作教室を開催、8月第一日曜日に開催される「歴舟川清流まつり」においてコンテストを実施、今回は2007年8月5日(日)に開催、前日打ち上げ実験を行ったハイブリッドロケットCAMUI(カムイ)の公開燃焼試験に続き競技開始、200mを越す高記録も、夏休みの1日を楽しみました。





2006

### ■「HASTIC宇宙への夢」講演会

2006年9月21日帯広市八千代中学校(渡部正男校長)で、NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC 秋葉鏡二郎理事長)副理事長伊藤献一氏を講師に「HASTIC 宇宙への夢」と題した講演会が開催されました。

全校生徒31名と父兄、教員が同校多目的ホールに集合、講師の伊藤副理事長が、約20年前から北海道に航空宇宙産業基地をつくらうと活動していること、道産子ロケットCAMUI(カムイ)の開発や北海道から宇宙旅行をしようと夢を持って取り組んでいることを話し、夢を持ち続けること、力を合わせて取り組みあきらめないことなど生徒たちにエールを送りました。生徒からは次々と質問の手が挙がり、関心の高さに講師も感心の様子でした。

講演後、校庭でペットボトルロケットの打上げをし、100m程飛ぶものもあり生徒たちの歓声が沸きあがりました。



### ■ロケットプレーンキスラー社副社長来町

小型ジェット機にロケットエンジンを搭載して高度100kmの宇宙旅行の事業化を目指す米国「ロケットプレーン・キスラー」社のチャールズ・ラウアー副社長が6月14日午後大樹町役場を訪問、伏見町長と懇談しました。副社長は訪問に先立ち帯広空港、大樹町多目的航空公園を視察し、将来宇宙旅行ビジネスを十勝で展開できないか調査しました。

ロケットプレーンは滑走路が2,500m必要、帯広空港は離発着が可能、町多目的航空公園は滑走路延長が必要とし、どちらも素晴らしい環境で宇宙観光に理想的と言っていました。

NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)伊藤献一専務理事の案内で来勝しました。



### ■第9回ペットボトルロケットコンテストin大樹

町では子供たちの科学への関心を喚起し、宇宙のまちづくりの理解を深めるため、ペットボトルロケットコンテストを開催しています。

毎年7月に制作教室を開催、8月第一日曜日に開催される「歴舟川清流まつり」においてコンテストを実施、今回は2006年8月6日(日)に開催、夏らしい好天に恵まれ高記録が続出しました。



### ■第25回ISTS金沢国際宇宙展示会に出展しました

第25回宇宙技術および科学の国際シンポジウム(ISTS)が6月5日から6月11日まで一週間、金沢市観光会館で開催され、併せて6月4日から国際宇宙展示会が金沢市21世紀美術館で開催されました。この展示会にNPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)(札幌市)と十勝圏航空宇宙産業基



地構想研究会(事務局帯広市)、大樹町の3者共同  
で出展し、ハイブリッドロケットの実物大モデルや小  
型衛星「大樹」の模型、パネル、ビデオ上映などを展  
示しました。

期間中約15,000人の来場者で賑わい、北海道の活  
発な宇宙開発に関心が寄せられました。

